

報告

民間団体アーカイブズの整理・編成・記述の こころみー日本力行会・永田稠文書を事例にー

Research of materials related to immigration in Nippon Rikkokai :
Arrangement, and description in private-sector archives

青木 祐一
Yuichi Aoki

1 はじめに

本報告では、学校法人日本力行会（東京都練馬区）に残された資料群を対象として、アーカイブズ学の手法に基づく、整理・編成・記述のこころみについて報告する。

日本力行会（1897年設立）は、キリスト教を母体とする民間団体として、北米・中南米、満州・南洋と、各方面へ多数の移民を送出した。移民送出にあたっては、現地での生活に備えるための研修施設や各種学校が設けられ、移植民教育がおこなわれていた。また、移民先の各地域には支部が設立され、移民の受け皿として、現地での定着に向けた実習、生活支援・互助機能を果たしていた。特にブラジルを中心とする南米への移民事業は戦後も継続され、支部のひとつである「ブラジル力行会」が2017（平成29）年9月に創立100周年を迎えたことは特筆すべきである。

日本力行会で発生した記録は、後述する通り大きく2系統あるが、今回対象とした2代会長・永田稠（しげし）に関する「永田文書」（日本力行会・永田稠文書）は、ファイルレベルで約500件、アイテムレベルで約1,600件が現存する。今回の調査では、過去の整理歴を活かしつつ、年史等による組織の沿革と現存する資料を照合することにより、資料群の整理・編成・記述、体系化をこころみた。

今回の調査を通じて明らかになった資料群の特徴として、①移民アーカイブズ：移民の送出事業および移民本人に関わる記録、②移植民教育アーカイブズ：移植民教育機関の記録、③個人アーカイブズ：海外移民事業を推進した2代会長・永田稠の思想・活動を反映する記録、という、3つの観点が挙げられる。

また、ISAD (G)、ISAAR、ISDIAHといった国際標準による記述と、アーカイブズ学の手法による整理・編成、資料群の体系化により、移民史研究に新たな素材を提供することで、国の事業以外で展開された、民間レベルでの移民送出事業の理想と内実や、移民先での生活や組織化のあり様が明らかにされることが期待される。

2 力行会とは何ぞや

日本力行会は1897（明治30）年に、キリスト者である島貫兵太夫（1866-1913年、仙台神学校（現在の東北学院大学）出身）によって創立された。島貫は、キリスト教に基づく「霊肉救済」（れいにくきゅうさい）の思想を掲げるとともに、「苦学力行」（くがくりっこう）をスローガンとして苦学生の渡米支援事業を行っていた。その著書『力行会とは何ぞや』（1911年）には、力行会についての島貫の考え方が示されている。

この渡米支援事業を移植民事業へと展開したのが、2代会長の永田稠（1881-1973年、長野県出身）である。永田は日本力行会の会員としてアメリカに移住していたが、1913（大正2）年に島貫の「凱旋」（召天）に際して後継者に指名され、日本へ帰国した。

2代会長・永田による日本力行会の事業の中心は、移民の送出国および移植民教育にあった。永田は入国が難しくなっていたアメリカに代わって、その送出国を南米、特にブラジルへと転換した。日本力行会は長野県の信濃海外協会とともに、ブラジルで「アリアンサ移住地」（現在のサンパウロ州ミランドポリス市）の建設に深く関わっており、満州においては新京（長春）郊外に「新京力行村」を開設している。また、永田は個人的にも積極的に国家事業へ関与し、文部省・在外子弟教育調査、信濃海外協会理事兼幹事、海外協会中央会理事兼幹事、陸軍嘱託として、海外調査や移民事業団体の役員を務めている。

日本力行会は、移民事業に伴って必要となる移植民教育にも注力しており、日本力行会海外学校、力行南米農業練習所、力行婦人修養所、朝鮮拓殖練習所、力行商業学校、力行工業学校、力行南米開拓練習所といった、各種学校・訓練施設を設立している。移植民教育および送出国事業は敗戦後も継続され、1960年代頃まで実施されていた。

こうして日本力行会から戦前から戦後にかけて送り出された移民はアメリカ大陸を中心に各地へ散らばり、1976（昭和51）年時点での海外支部は、アメリカ、カナダ、メキシコ、ブラジル、ベネズエラ、キューバ、パラグアイ、ボリビア、アルゼンチンに及んだが、現在はブラジルを残すのみとなっている。

また、同会の年史は、50年史、70年史、100年史、110年史が編さんされており、機関誌『力行世界』は1913（大正2）年創刊で、現在まで継続している。

現在の日本力行会は、学校法人として幼稚園事業（りっこう幼稚園）とともに、留学生・研修生の受入れおよび留学生寮（力行会館）の運営事業をおこなっている。

3 資料の伝来・整理歴

日本力行会は、1926（大正15）年に現在の練馬区小竹町に移転し、敷地内には本部、校舎、寄宿舎、農場、永田家住宅などが配



写真1 — 日本力行会本部

置されていた。その後、1970年代に火災により、施設とともに多くの資料を焼失したと言われている。

日本力行会を出所とする資料群には大きく2系統ある。ひとつは、1997（平成9）年に刊行された100年史『日本力行会百年の航跡』の編さんをきっかけに、法人内で存在が確認された資料群である。その際には、日本力行会本部（1984年落成）内に、「力行海外移住史料室」が整備され、史料室内には島貫および永田夫妻に関する資料が展示ケースに収められるとともに、書庫内に移民関係の図書・雑誌・文書類が保管されている（力行海外移住史料室資料）。これらについては、早稲田大学・和田敦彦教授（日本近代文学、書物リテラシー研究）による調査と目録整備が行なわれており、『海外発展関係書籍および資料目録集』（1997年）が刊行されるとともに、日本力行会のホームページから検索可能である。

もうひとつ、今回の調査対象となった資料群については、100年史の刊行後、永田稠の長男であり、同会の元理事長であった永田泉（故人）が自宅で保管していた資料を同会へ持ち込んだことから、同会内で「永田文書」と呼ばれていた。この資料群の内容については、100年史には盛り込まれていない。永田家は稠の死後まもなく、日本力行会の経営から手を引いており、小竹町を引き払う際に永田個人に関する資料を別置したものと推測される。また、この資料群については、2000年代に当時の職員が分類・整理したため（第1次整理）、原秩序は不明である。

4 調査方法

今回の調査では、この「永田文書」（日本力行会・永田稠文書）について、2013年から2016年にかけて、再整理作業をおこなった。Excelで目録データを作成し、最終的にファイルレベル478件、アイテムレベル1641件となった。第1次整理時にファイルレベルで「N-1」（「N」は永田の頭文字を示す）から通番で番号が付されていたためそのまま活かし、アイテムレベルの記述を中心に作業をおこなった。また、原表題の内容を補足し、資料内容が把握できるような記述をこころがけた。資料については、1点ずつ中性紙封筒に封入



写真2——永田稠文書の保存状況①



写真3——永田稠文書の保存状況②

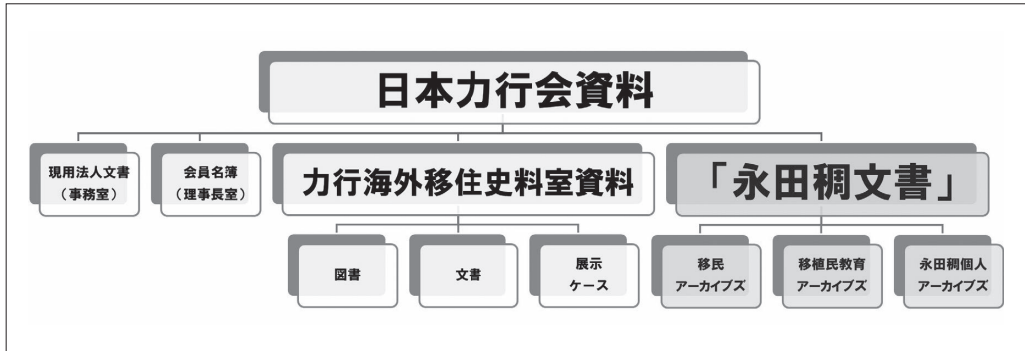


図1——日本力行会資料の体系

の上、保存箱21箱（+大型資料）に収納した。

5 資料群の構造と記述

今回の調査にあたっては、アーカイブズ学の手法による整理・編成および国際標準による記述をころみした。具体的には、以下の3つを用いた。

- ①ISAD (G)：国際標準記録史料記述一般原則
- ②ISAAR：団体、個人、家族のためのアーカイブズ典拠レコード
- ③ISDIAH：アーカイブズ所蔵機関の記述に関する国際標準

日本力行会所蔵資料の全体像を【図1】に示した。同会には、まず学校法人として現用の法人文書がある。また、理事長室には創立以来の会員名簿（履歴書形式）が保管されているが、個人情報を含むため、所在および保存状況の確認にとどめ、今回の調査対象外とした。また、力行海外移住史料室内に保管されている資料群（力行海外移住史料室資料）については、先に述べたように、早稲田大学・和田教授による調査済である。

今回の調査対象とした「永田文書」については、先に述べた伝来の経緯、日本力行会の事業と永田稠個人との密接かつ不可分な関係から、資料群のタイトルを「日本力行会・永田稠文書」とした。その上で、資料群全体の確認と目録作成作業をおこなった結果、大きく以下の3つのシリーズを設定した。

- ①移民アーカイブズ
- ②移住民教育アーカイブズ
- ③永田稠個人アーカイブズ

以下、それぞれの機能と内容について概要を記す。

①移民アーカイブズについては、2代会長・永田稠時代の日本力行会による移民送出事業に関する記録である。海外移民について紹介した案内書や現地での状況を記した報告書などが含まれる。特に、送出事業および現地とのやり取りの記録（永田および日本力行会とアリアンサ移住地との往復書簡控）は、移住地の当時の状況について詳細に記載されており、移民事業の理想と現実の生々しい矛盾を知る上で非常に貴重な記録である。

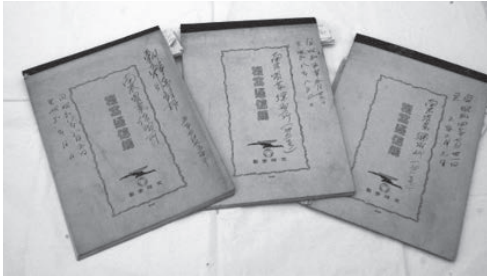


写真4——移民アーカイブズの例（アリアンサ移住地との往復書簡控）

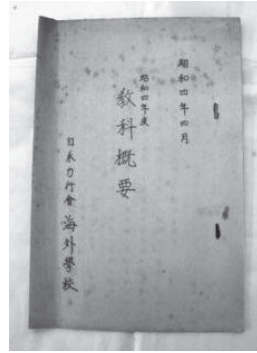


写真5——移住民教育アーカイブズの例（日本力行会海外学校・教科概要）

②移住民教育アーカイブズについては、日本力行会が設立した各種学校および訓練施設の運営記録である。各施設で用いられたテキスト類や時間割表からは、実際にどのような教育がおこなわれていたのかをうかがい知ることができる。移住民教育の内実を解き明かす上で欠かせない資料であるとともに、入所者たちの寮日誌や、移民を希望する者たちによる機関誌への投稿記事等は、移民を志した者の背景や動機を語ってくれるだろう。

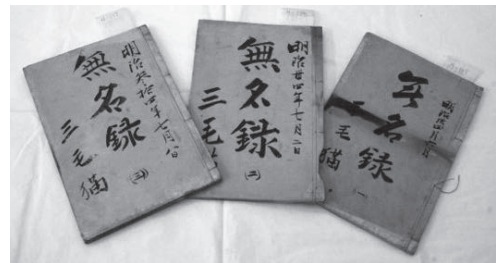


写真6——永田稠個人アーカイブズの例（旧制諏訪中学校時代の日記）

③永田稠個人アーカイブズについては、永田稠個人に関する記録である。旧制諏訪中学校時代の日記から始まり、ブラジルと満州への移民事業を強力に推進した永田による、日本全国への啓発活動のための各種著作原稿や現地への渡航記録等が残されており、民間人による移民送出事業の動機や意義について解き明かすことができる記録と評価できる。

6 関連資料について

日本力行会および同会からの移民に関する資料として、以下のものが挙げられる。

まず、東京都公文書館には日本力行会海外学校の設立（1923年）、国立公文書館には同会の財団法人認可（1933年）に関する資料が移管・公開されている。

また、長野県立歴史館には、永田稠が幹事を務めた信濃海外協会に関する資料が「信濃海外協会・信濃海外移住組合史料」として所蔵・公開されている。この資料群には、永田個人と長野県およびアリアンサ移住地との関わりや、日本力行会に関わる資料が多数含まれている。長野県立歴史館の資料と、日本力行会の資料をつなぎ合わせることで、日本力行会が関わった海外移民送出事業の全体像が見えてくるものと思われる。

一方、海外では、現在のブラジル力行会（サンパウロ市）では、関連資料が確認できなかった。また、日系資料を多数所蔵するサンパウロ人文科学研究科やアリアンサ移住地・

弓場農場内にある北原・輪湖記念館には移民個人に関する資料が保管されており、こうした資料群の中に日本力行会との関わりを示すものが含まれている可能性がある。同様に、その他の国においても、日本力行会および同会からの移民に関する資料が存在することが想定され、今後の調査が待たれるところである。

7 おわりに

本報告では、日本力行会に残された「日本力行会・永田稠文書」を素材として、目録編成・記述のこころみを紹介した。今回の調査で作成した目録はExcelベースの「仮目録」(表1)の状態であり、今後、公開に耐えうるシリーズ編成に基づいた目録を整備していく必要がある。

最後に、日本力行会に残された資料の意義について述べたい。日本力行会は創立以来、戦前は北米・中南米、満州・南洋、戦後は南米を中心に移民を送出し続けた民間団体である。日本における海外移民・移住事業は国家事業として推進されたものであり、そこから多くの問題と困難が引き起こされたことは周知の事実である。一方、移民という個人による移動および活動に伴って発生する記録は「国家の記録体系」からこぼれ落ちる存在であり、公的な保護の対象外の「民間資料」の位置づけとなる。日本力行会の所蔵資料は、国家レベルの記録からは見ることができない、移民個々人の渡航をめぐる状況や動機、渡航前から渡航後の姿、それを支えた組織の動向を具体的に知ることができる貴重な資料群と評価できよう。

また、今回の調査は民間団体のアーカイブズについて、組織外・専門分野外の第三者が、アーキビストとしておこなった整理・編成・記述のこころみである。民間資料を調査研究、保存・公開していく上でのひとつの参考事例となれば幸いである。

謝辞

本報告は、科学研究費(挑戦的萌芽研究)「移民アーカイブズの標準化モデル構築に向けての実践的研究:日系ブラジル移民を対象に」(課題番号:25580149、研究代表者:青木祐一、2013~2016年度)の成果の一部である。調査にご協力いただいた、日本力行会および同会職員・田中直樹氏に心よりお礼申し上げます。

また、アーカイブズ学専攻の入澤寿美教授(当時)には、今回作成した目録データのICA「AtoM」への投入を含め、データベース構築についてご指導をいただきました。これまでのご教授に感謝申し上げます。

表1——日本力行会・永田稗文書目録(抜粋)

箱	番号	枝番号	表題	内容補記	作成	宛先	年月日	形態	数量
1	N-1		大正十四年中移民取扱数一覧表	府県別・移民先別	海外興業株式会社	—	(1942年)	印刷物	1枚
1	N-2		昭和四年中移植民取扱数一覧表	府県別・移民先別	海外興業株式会社	—	(昭和12年12月)	印刷物	1枚
1	N-3		昭和五年中移植民取扱数一覧表	府県別・移民先別、「移民地事情」第50号附録	海外興業株式会社	—	(昭和14年)	印刷物	1枚
1	N-4		南米ブラジル アリアンサ移住地案内		信濃海外移住組合(長野県庁内)	—	(昭和14年)	印刷物	2冊
1	N-5		南米土地組合便覧	サンパウロ州の地図、ブラジル概要	海外協会中央会	—	(昭和14年)	印刷物・地図	1枚
1	N-6		アリアンサ移住地	区画図、縮尺12万分の1	—	—	(昭和2年)	印刷物	1枚
1	N-7		信濃海外協会規約		総裁 本間利雄、他17名	—	(昭和30年)	印刷物	1枚
1	N-8		雑	外務省移民政策関係書類	—	—	(昭和35年)	バインダー	20点1綴
1		1	カンボディア移住計画実行推進に関する件	カンボジア	移住局	—	(昭和38年)	印刷物	1点
1		2	三十年度移住者送出数に関する説明		移住局	—	(昭和3年11月)	印刷物	1点
1		3	農林省拓殖課移住関係担当官	「農林省拓殖課移住関係業務」の切り抜き記事。移住関係の担当官名。	—	—	(昭和43年4月)	記事切り抜き	1点
1		4	現行移民運賃に対する検討	「改造船(あめりか・あふりか丸)による移民運賃」、「新造船(ぶらじる丸)による移民運賃」、移民船運賃計算表等、O・S・K(大阪商船)が所有する貨客船の移民運賃計算方法について	移民課	—	(戦前)	ガリ版印刷	1点
1		5	海外移住に関する事務調整についての閣議決定		外務省、農林省	—	(大正14年)	印刷物	1点
1		6	外務省組織令(抄)		外務省移住参事官	—	—	印刷物	1点
1		7	昭和三十年度移民送出計画概要		欧米局移民課	—	—	ガリ版印刷	1点
1		8	移民行政機構案	移民行政機構の現状および外務・農林・労働・建設各省案の比較表	外務省移住参事官	—	—	手書き(外務省異紙)	1点
1		9	外務省組織令(抄)	政令第百十三号。移住局の分課および各課の分掌	—	—	—	印刷物	1点
1		10	移住局第三課機構図		—	—	—	ガリ版印刷	1点
1		11	[外務省移住局設置に伴う外務・農林ほか関係各省の事務調整について]	「外務省に移住局を設置することに伴う閣議了解(案)」「説明書」「海外移住に関する事務調整についての閣議決定」「海外移住に関する閣議決定に伴う外務、大蔵、農林三次官申合せ事項」「閣議了解」「外務省に移住局を設置することに伴う閣議了解事項」に伴う農林漁業移民に関する外務、農林両省事務次官覚書(確定案)」	外務省、農林省	—	—	印刷物	1点
1		12	海外移住審議会設置要綱		総理府	—	—	印刷物	1点
1		13	[移住局分掌に関する外務省令か]		—	—	—	印刷物	1点
1		14	海外移住審議会委員及び幹事		—	—	—	印刷物	1点
1		15	在外公館設置状況一覧表		外務省官房総務課	—	—	ガリ版印刷	1点
1		16	在外公館表(草稿)		—	—	—	印刷物、手書き	1点
1		17	[附録2] 外務省の機構		—	—	—	印刷物	1点
1		18	[附録1] 日本と諸外国との国交一覧表		—	—	—	印刷物	1点
1		19	外務省機構図 八局一部一次長、四四課、一室		官総	—	—	ガリ版印刷	1点
1		20	海外移住審議会委員及び幹事		—	—	—	印刷物	1点
1	N-9		南十字会・在伯女子会員・名簿		—	—	—	印刷物	5枚
1	N-10		レポート	設問：移住学、南米事情、渡航法、海外礼式、旧約聖書、新約聖書、農業、ポルトガル語	—	—	—	印刷物	1冊

国際標準による記述

ISAD(G) : 国際標準記録史料記述一般原則

- 文書群名：日本力行会・永田稠文書
- 出所：日本力行会／永田家
- 所在：東京都練馬区小竹町2-43-12
- 伝来：永田稠（日本力行会・2代会長）・泉（同会理事長）父子によって伝来
- 記述レベル：ファイルレベル／アイテムレベル
- 数量：ファイルレベル478件、アイテムレベル1641件（21箱+大型資料）
- 年代幅：1890年代～1970年代

ISAAR : 団体、個人、家族のためのアーカイブズ典拠レコード (2nd Edition)

5.1 IDENTITY AREA

5.1.1 Type of entity : 学校法人

5.1.2 Authorized form(s) of name : 日本力行会 : Nippon Rikkokai

5.1.4 Standardized forms of name according to other rules : 力行会

5.2 DESCRIPTION AREA

5.2.1 Dates of existence : 1897年（明治30）

5.2.2 History : 1897年に牧師・島貫兵太夫が、苦学生救済を目的とした「東京労働会」を設立。1900年に「日本力行会」と改称。キリスト教に基づく、「霊肉救済」の思想を掲げる。力行女学校（1908年）、日米実業学校（1910年）等の教育機関を設立し、北米向けの苦学生渡航支援事業を推進する。1909年にはバンクーバー、サンフランシスコに支部が結成され、1910年に会員は6千名に達する。1913年に島貫が48歳で「凱旋」（召天）するに際し、2代会長に永田稠を指名。

永田稠・くら夫妻は米国より帰国し、2代会長に就任。1920年に文部省の委嘱により北米・中南米を一巡、1922年には信濃海外協会、海外協会中央会の設立に関わり、理事・幹事に就任した。ブラジルに「アリアンサ移住地」の開設を計画し、ブラジルへの移民を推進。並行して、日本力行会海外学校（1923年）、力行南米農業練習所（1926年）、力行婦人修養所（1926年）、朝鮮拓殖練習所（1930年）、力行商業（工業）学校（1939年）と次々に移殖民教育および現地での練習施設を開設。満州移民事業にも関わり、1938年に「新京力行村」を開設。

戦後も、ブラジルへの移民送出および移民教育事業は継続する。1973年、永田は享年91歳で「凱旋」（召天）。その後、力行会の事業は、幼稚園と留学生寮を中心に運営される。1997年、創立100周年記念式典を開催。2017年には同会のブラジル支部であるブラジル力行会が100周年を迎え、記念式典がサンパウロ市で開催された。

5.2.3 Places : 東京都練馬区小竹町2-43-12

5.2.4 Legal status : キリスト教団体→財団法人（1933年）→学校法人（2014年）

5.2.5 Functions, occupations and activities : (現在の学校法人のもの)

- 目的：国民の力行的精神の作興を図り、兼ねて一般子弟並びに開拓者の教育指導援助を法人発足の理念とする。国境や文化を超えて共生する理念達成に寄与するために国際交流と海外からの留学生支援を推進すると共に、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、異文化に触れ合う環境の中で、よりよき社会人・国際人となる人材を育成することを目的とする。
- 事業：(1) りっこう幼稚園の経営 (2) 国際協力事業の推進
(3) 力行会館の経営 (4) その他必要なる事業

5.2.6 Mandates/Sources of authority : 民法 →私立学校法

5.2.7 Internal structures/Genealogy : (現) りっこう幼稚園、力行会館 (学生寮)

(沿革) 初代会長・島貫兵太夫、2代会長・永田稔、妻・くら、長男・泉 (理事長)

5.3 RELATIONSHIPS AREA

5.3.1 Names/Identifiers of related corporate bodies :

ブラジル力行会 : Rikkokai do Brasil / <http://rikkokaidobrasil.pokebras.jp/>

5.3.2 Category of relationship : 支部 (現地法人)

5.3.3 Description of relationship : 日本力行会の海外支部のひとつである。ブラジル政府より法人格を取得しており、2017年9月にサンパウロ市において創立100周年記念式典を開催した。100年史、80年史、全史 (1992年)、40年史を刊行。

5.3.4 Dates of the relationship : 1916年

5.4 CONTROL AREA (略)

ISDIAH : アーカイブズ所蔵機関の記述に関する国際標準

5.1 IDENTITY AREA

5.1.2 Authorised form(s) of name : 日本力行会

5.1.5 Type of institution with archival holdings : 学校法人

5.2 CONTACT AREA

5.2.1 Location and address : 東京都練馬区小竹町2-43-12

5.2.2 Telephone, fax, email : TEL 03-3972-1151 FAX 03-3972-1264

5.3 DESCRIPTION AREA

5.3.1 History of the institution with archival holdings : (略)

5.3.4 Administrative structure : 法人事務局による管理

5.3.5 Records management and collecting policies : 過去の移民送出・移植民教育機関としての歴史から、移民関係資料の収集・保存・公開をおこなっている。

5.3.6 Building(s) : 敷地内は「日本館」(法人本部および留学生寮)、「国際館」(留学生寮)、「りっこう幼稚園」の大きく3つから構成される。このうち、「日本館」には「力行海外移住史料室」が設けられており、移民関係図書・資料および一部の資料が展示ケース内に陳列されている。「日本館」の玄関には、創立者の島貫兵太夫と2代会長

の永田稠の胸像が設置されている。今回対象とした「日本力行会・永田稠文書」は、現在「国際館」内の一室に仮置きされている状態にある。

5.3.7 Archival and other holdings : 力行海外移住史料室資料／「日本力行会・永田稠文書」／会員名簿

「日本力行会・永田稠文書」は、ファイルレベル478件、アイテムレベル1641件、21箱に収納

- ①移民アーカイブズ：外務省をはじめとする国家機関による現地の調査報告書の存在は国家と日本力行会の密接な関係をうかがわせる一方、送出事業の記録および現地とのやり取りの記録は、移民事業の理想と現実の生々しい矛盾を知る上で欠かせない記録である。
- ②移植民教育アーカイブズ：日本力行会が設立した研修施設および各種学校の運営記録は、移植民教育の内実を解き明かす上で欠かせない資料である。また、入所者たちの寮日誌や、移民を希望する者たちによる機関誌への投稿記事等は、移民を志した者の背景や動機を解き明かしてくれる。
- ③永田稠個人アーカイブズ：2代会長である永田稠は、特にブラジルと満州への移民事業を強力に推進し、日本全国への啓蒙活動につとめた。その啓蒙活動のための各種著作原稿、日記、現地への渡航記録等が残されており、民間人による移民送出事業の意義を解き明かす上で重要な資料である。

5.3.8 Finding aids, guides and publications :

- 機関紙『力行世界』（1913年～現在）
- 『日本力行会百年の航跡』（1997年）
- 年史類：110年史、100年史、70年史、50年史
- 『海外発展関係書籍および資料目録集』（1997年）
- 「日本力行会・永田稠文書目録」（今回作成した成果物）

5.4 ACCESS AREA

5.4.1 Opening times : 9 : 00～17 : 30（事務取扱時間）

5.4.2 Conditions and requirements for access and use : 事前連絡のこと

5.4.3 Accessibility : 東京メトロ・小竹向原駅または西武池袋線・江古田駅

5.5 SERVICES AREA

5.5.1 Research services : 閲覧は「日本館」1階の「力行海外移住史料室」でおこなう。書庫内の図書資料の利用は自由。「日本力行会・永田稠文書」の閲覧については現在のところ要相談。

5.5.2 Reproduction services : 利用者自身によるデジカメ撮影対応となる。

5.5.3 Public areas : なし

5.6 CONTROL AREA

5.6.3 Rules and/or conventions used : 記述はISAD (G)、ISAAR、ISDIAHによる。

5.6.4 Status／5.6.5 Level of detail : 「日本力行会・永田稠文書」の目録記述は完了し

ている。

5.6.6 Dates of creation, revision or deletion : 2018年3月3日

5.6.7 Language(s) and script(s) : 日本語

5.6.8 Sources : 日本力行会HP <http://rikkokai.or.jp/> ほか、年史・文書類による

5.6.9 Maintenance notes : 青木祐一(学習院大学)、名村優子(立教大学)作成

6. RELATING DESCRIPTIONS OF INSTITUTIONS WITH ARCHIVAL HOLDINGS TO ARCHIVAL MATERIALS AND THEIR CREATORS

6.1 Title and identifier of related archival material :

長野県立歴史館所蔵「信濃海外協会・信濃海外移住組合史料」

6.2 Description of relationship : 信濃海外協会および信濃海外移住組合は2代会長・永田稔が立ち上げに深く関与し、理事兼代表幹事を務めた。信濃海外協会はアリアンサ移住地の計画主体であり、移住地開設および運営、日本力行会および永田稔に関する資料が多く含まれる。

6.3 Dates of relationship : 1922年～?

6.4 Authorised form(s) of name and identifier of related authority record :

長野県立歴史館所蔵